
平成16年度 都市再生モデル調査

「瀬戸内アートネットワーク構想推進調査」

平成17年9月15日

ベネッセアートサイト直島

笠原 良二

瀬戸内アートネットワークの目的と効果

現代アートによる地域の活性化が進んでいる “直島”を核に、

備讃瀬戸エリアの島嶼部と沿岸都市部を アートを軸とした
広域的なネットワークを形成し、

瀬戸内海に新たな文化エリアを創造し、世界からの観光客を惹きつける文化的な観光開発を行い、地域の活性化を図る。

コミュニティの再生

文化の創造

交流空間の創出

(参考)

瀬戸内海の島の数:約700島

岡山県:約 80島(有人島約20)

香川県:約112島(" 約25)

1 直島の紹介



2 直島の紹介

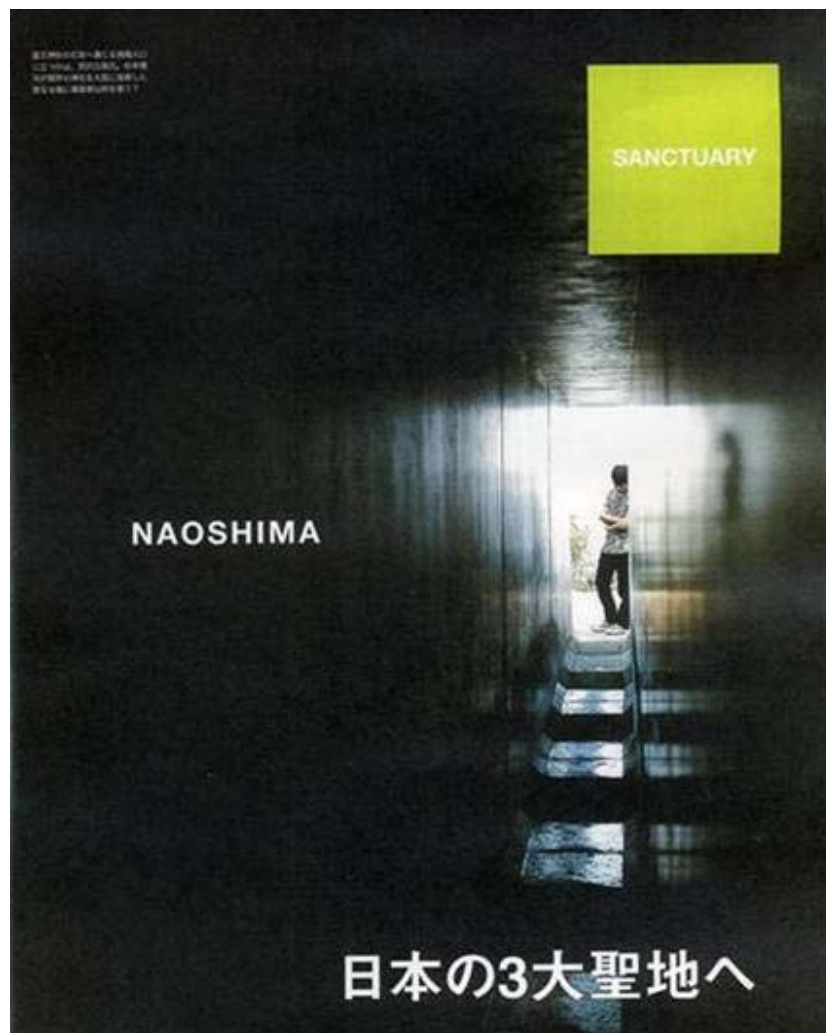
- 行政区域: 香川県香川郡直島町
- 面積: 14.22km²
 - ・本島: 8.13km² + 2つの有人島と21の無人島
- 人口: 3,479人(2005年4月1日現在)
 - ・最盛期人口約7,800人(昭和30年代)
 - ・ここ10数年間、毎年約100名減
 - ・特に若年層が減少
 - ・最近やや減少に歯止めが?
- 戸数: 1,454世帯
- 産業: 工業中心
 - ・大正時代から銅製錬所が稼動
 - ・漁業(養殖業)も盛ん

3 直島の紹介

Conde Nast TRAVELER (2000年4月号)



4 直島の紹介 カーサ ブルータス マガジンハウス(2003年11月号)



5 直島の紹介

朝日新聞 AERA (2005年1月24日号)

アート



大塚ルリ子
直島美術館の中心事業家大塚ルリ子。島の車の数、商店街の活性化、学校にアートを取り入れるなど、島を「まよや」に変える。アートの力で島の未来を創る。

「島は、昔ながらの生活スタイルを大切にしたい。アートを通じて、島の魅力を発信し、島民の生活を支えたい。」

「島の魅力を発信し、島民の生活を支えたい。」

瀬戸内・直島 美術の出会い

「島ぐるみ美術館」が注ぎかけた人々

「島ぐるみ美術館」が注ぎかけた人々



高橋石典
直島美術館の中心事業家高橋石典。島の魅力を発信し、島民の生活を支えたい。

「島は、昔ながらの生活スタイルを大切にしたい。アートを通じて、島の魅力を発信し、島民の生活を支えたい。」

「島の魅力を発信し、島民の生活を支えたい。」

「島ぐるみ美術館」が注ぎかけた人々

「島ぐるみ美術館」が注ぎかけた人々

「島ぐるみ美術館」が注ぎかけた人々

-1 備讃瀬戸の島々の現地調査(直島から各島へ)

【日 時】平成16年10月～平成17年2月

【対 象】全14島(香川県13島、岡山県1島)

- ・本島/広島/牛島(丸亀市)・女木島/男木島(高松市)・志々島/栗島(詫間町)
- ・高見島/佐柳島(多度津町)・与島/岩黒島/櫃石島(坂出市)・直島(直島町)
- ・犬島(岡山市)



-2 直島セミナーの開催(各島から直島へ)

【日 時】平成17年1月25日(土)

【場 所】直島 本村&アーカイブ及びベネッセハウス

【テーマ】アートを核とした地域活性化の可能性

- ・家プロジェクト見学
- ・レクチャー 「スタンダード展について」
- ・レクチャー 「アートを核とした地域活性化」

【参 加】約70名(現地訪問調査した各島からの参加者)



- 3 シンポジウムの開催(直島・各島から世の中へ)

【日 時】 平成17年2月19日(土) 13:00 16:00

【場 所】 かがわ国際会議場(サンポート高松)

【テーマ】 「瀬戸内アートネットワークの可能性」

第一部:プレゼンテーション

『瀬戸内へのメッセージ、将来の展望』

第二部:パネルディスカッション

『瀬戸内アートネットワーク』の可能性

[司会]

三好勝則(香川大学大学院地域マネジメント研究科教授)

[パネリスト]

真鍋武紀(香川県知事)

濱田孝夫(直島町長)

岡市友利(さぬき瀬戸塾塾長)

中山恭子(元内閣官房参与)

池上惇(京都橘女子大学文化政策学部長)

福武總一郎(直島福武美術館財団 理事長)

【参加】 約300名



平成16年度 都市再生モデル調査
「瀬戸内アートネットワーク構想」



平成16年度 都市再生モデル調査
「瀬戸内アートネットワーク構想」



平成16年度 都市再生モデル調査
「瀬戸内アートネットワーク構想」



平成16年度 都市再生モデル調査
「瀬戸内アートネットワーク構想」

- 4 アートクルーズツアーの試行

【日 時】 平成17年2月15日(土)8:30～19:15

【コース】 高松港 女木島 男木島 牛島 栗島 佐柳島 本島 宇野港

【参 加】 約30名



今後の展開の可能性

- 2010年、備讃瀬戸エリアでの
国際現代美術展開催に向けて、
島嶼部、沿岸地域の各芸術拠点の連携・連絡が
立ち上がりつつある。
(香川県の協力)
以後5年ごとの開催を目指す。
- 2007年、プレ企画的に
直島を拠点にした展覧会 (スタンダード)の
準備が進んでいる。(ベネッセアートサイト直島)